

成田山の正式名称の移り変わり

成田山 神護新勝寺

朱雀天皇より授けられた。

1631年（慶長 6）」本末制度が出来た時に弥勒寺の寺末になる。

弥勒寺は 1610 年宥鑊が徳川家康から江戸の鷹匠町に寺地を下賜されて建立した寺である。

1706 年 江戸弥勒寺（真言宗豊山派）（しんごんしゅうぶざんは）の寺末より離れる。

成田山金剛王院新勝寺

1707年 京都大覚寺の寺末に転ずる、金剛王院 院室兼帯の令旨を受ける。

京都嵯峨大覚寺（真言宗大覚寺派）（876 年創建）直末となる。

成田山金剛王院新勝寺と称す常法談林の寺格を得る

檀林（だんりん）は、仏教寺院における僧侶の養成機関

1879 年(明治 12 年)大覚寺直末を離れ、智積院（真言宗智山派）（1598 年）創建」の直末になる

智積院の正式名称は[五百佛山 根来寺 智積院]（いおぶさん ねごろじ ちしゃくいん）

大本山成田山金剛王院新勝寺

1946年（昭和 21 年）真言宗智山派の大本山となる

*****成田山の正式名称[大本山成田山金剛王院神護新勝寺]*****

総本山智積院[五百佛山 根来寺 智積院]その下に三つの大本山がある

大本山 成田山明王院神護新勝寺（なりたさんみょうおういんじんごしんしょうじ）

大本山 金剛山 金乗院 平間寺（こんごうざんきんじょういんへいけんじ）

大本山 高尾山薬王院有喜寺（たかおさん やくおういん ゆうきじ）

成田山の開基

高雄山神護寺の護摩堂の本尊であった、弘法大師空海が敬刻開眼したという不動明王像を、平将門の乱平定の為、朱雀天皇より密勅を受けた寛朝大僧正が難波の津の港（現・大阪府）から海路を、尾垂ヶ浜（現・横芝光町）に上陸させ、成田の地に祀り、乱平定の為護摩を奉修しますが、乱の平定後も、不動明王像の自らのご意思により、この地に留まったというのが、成田山の起源です。明治までご本尊の借り賃を、神護寺に支払っていたという説もあります
高雄山神護寺（じんごじ）は、京都市右京区高雄にある高野山真言宗の寺院。

弥勒寺（みろくじ）

東京都墨田区立川にある真言宗豊山派（ぶざんは）の寺院。山号は万徳山。院号は聖光院。

この寺は、宥鑊が中興し、青銅の不動尊を安置しました。

宥鑊（ゆうぱん）（1572～1633） 1610 年退隠 62 遷化

宥鑊上人(第四世)は成田山新勝寺の中興の祖と称されます

本末制度（ほんまつせいど）（1631 年）

江戸時代、江戸幕府が仏教教団を統制するために設けた制度である。

各宗派の寺院を重層的な本山・末寺の関係に置くことで、その宗派に対する統制をはかった制度である。そのため、無本寺寺院をゼロにして、寺院相互の本末関係を固定化してしまう必要があった。1631 年、新寺の創建を禁止し、翌年以降、各本山に対して「末寺帳」の提出を義務づけた。これによって、各地方の古刹が幕府の命によって、形式的に特定の宗派に編入されることとなった。幕府は、江戸に設置された各宗派の「触頭（ふれがしら）」を通じて、自らの意向を宗派の末寺に対して周知徹底させることが可能になった。